

西尾市方式 PFI 事業 見直し方針説明会

会議録

日時：平成 30 年 4 月 11 日（水）

午後 6 時 30 分から

場所：一色地域交流センター〔多目的ホール〕

説明会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 PFI 事業の見直し方針について
- 4 見直し方針に対する質疑応答
- 5 閉会

○出席者

市関係者	中村市長、長島副市長、近藤企画部長 教育委員会：永谷教育部長、内藤教育部次長、原田教育庶務課長 PFI 事業検証室：齋藤企画部次長（室長）、築瀬主幹、菅沼主幹ほか 6 名
出席者	市民 90 人

平成 30 年度「西尾市方式 PFI 事業見直し方針説明会」(一色地区)

○司会

皆様、こんばんは。私は、事務局を務めます企画政策課 PFI 事業検証室事業計画担当主幹の菅沼でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、お時間になりましたので、ただいまから「西尾市方式 PFI 事業見直し方針についての説明会」一色地区を開会いたします。

はじめに、本日の出席者をご紹介します。正面中央の中村市長を始め、皆様から向かって右へ長島副市長、企画部長、左へ企画政策課 PFI 事業検証室職員が出席しております。また、後列に教育委員会の担当者も出席しております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

本日の西尾市方式 PFI 事業見直し方針についての説明会の開催目的は、3月に作成・公表しました、見直し方針を皆様へ報告するとともに、率直なご意見をお聞かせいただきたいと考え、開催するものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、受付で配布しました資料の確認と本日の予定をご案内いたします。

配布資料は、西尾市方式 PFI 事業見直し方針、見直し方針説明会アンケートと筆記用具でございます。不足している方は、近くの職員に申し出てください。本日の資料にはございませんが、検証報告につきましては、ホームページで公開しております。また、アンケート用紙でございますが、今後の参考とさせていただきますので、説明会終了後、出口の回収箱にお入れいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

このあと市長から あいさつと見直し方針についての考えなどをお話しさせていただきます。その後、配布資料により事務局から PFI 事業の見直し方針についてご説明させていただきます。そして皆様から、ご意見をいただくお時間を取りたいと思います。

説明会の終了時間は、午後 8 時を予定しておりますが、意見が多いようでしたら最大で 30 分延長をし、少ない場合は、予定より前に終了させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

なお、記録用として、説明会の音声録音と写真撮影をさせていただき、説明会記録は準備出来次第、公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは市長、よろしくお願いいたします。

○市長

みなさん、こんばんは。本日は西尾市方式 PFI 事業見直し方針説明会にご参加いただきまして、どうもありがとうございます。去る 3 月 5 日に市議会及び記者会見という形で見直し方針を説明させていただきました。私が市長に就任したのが昨年 7 月になりまして、以降工事の中断とこれまでの事業の検証、そして見直し方針の作成を進めてまいりました。具体的には 11 月にこの場で行いました意見交換会ですとか、地区別の市政懇談会、各種団体さんとの懇談会、年末から年始にかけて行いました市民アンケートなどで、たくさんの市民の皆さんのご意見を聞かせていただいて、一番重視したことは公共施設再配置の理念にのっとりながらも、市民の皆さんの意見を最大公約数的に反映させたいということであり、それに加えて、施設を所管する各課の考えですとか、工事の安全性なども含めまして、最終的に統合させていただいたものが確定版ということになります。内容につきましては新聞紙面ですとか、市の広報ですとか、インターネット上でも公表はしてるんですが、何分活字だけで伝わりきらないとこ

るもありますし、誤解が生じても双方にとって良くないということもありますので、今回こういう形で顔を見ながら説明会を開催させていただきました。この後詳細については説明させていただきますが、それをふまえて見直し方針の中で、ご不明な点ですとか、本日の資料にはございませんけれども、検証内容につきましてのご意見ご質問、また一色でありますと一色支所を最終的にどうするかということについては、まだ結論を出しておりませんので、例えばこういった形で使いたい等のご意見がございましたら、そうしたところも踏まえて、たくさんご意見いただければと思います。限られた時間になりますけれども、有意義な会にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○司会

続きまして、PFI 事業の見直し方針について PFI 事業検証室よりご説明いたします。それではお願いします。

○検証室

検証室の齊藤と言います。私の方から本日受付の方でお配りしました資料、「西尾市方式 PFI 事業の見直し方針について」に沿って説明させていただきます。

今回行いました検証及び見直しにつきましては、昨年 7 月の中村市長就任以降、「新たな官民連携手法（西尾市方式）による公共施設再配置第 1 次プロジェクト」について、今までの実施経過を確認し、その問題点を整理すると共に、今後の事業の望ましいあり方を検討してまいりました。検討を行う上で、昨年の 11 月中旬から 12 月上旬にかけて開催しました「市長と語る意見交換会」「PFI 事業についての懇談会」でのご意見や市長自ら大勢の方からいただいたご意見を参考とさせていただきました。さらに、12 月 20 日に市民 3,000 人を対象とした市民アンケートを実施し、回答率 47.73%、1,432 人からご回答をいただきました。皆様からいただいた貴重なご意見を踏まえ、また、公共施設再配置の「基本理念」「基本方針」に立ち返り、市民が納得し、意義を共有できるものとするための検討を行い、見直し方針の作成にいたしました。本日は、一色地区の見直し方針を中心に説明させていただきますので、資料を 1 枚めくっていただき 1、2 ページをご覧ください。

1 ページ、表の左から施設の名称、今回 PFI 事業での計画、そこに備える機能、見直しの方針、右側 2 ページに、見直し方針の根拠を記載しています。なお、根拠の欄が、斜線の施設につきましては、工事が完了している、または計画のとおり実施するものであります。

では、プロジェクト 01（吉良地区）の事業について、説明いたします。きら市民交流センター（仮称）支所棟は、トレーニング室、体育室、浴室は整備せず、その部分には、生涯学習機能や、市政世論調査で、維持・充実していくべき公共施設として挙げられた、子育て支援施設などを検討します。

次に、きら市民交流センター（仮称）アリーナ棟は、吉良町公民館を解体する前提で、利用者の活動拠点を求める声も多く、その代替施設を検討する必要がありますが、財政負担軽減のため、規模及び内容を再検討し、建設してまいります。

次に、きらスポーツドーム（仮称）は、公共施設の保有総量及び次世代の負担軽減を図るために、屋内スポーツ施設の機能をきら市民交流センター（仮称）アリーナ棟に集約することを検討することとし、建物を建設せず公園として利用します。1 枚めくっていただき、3、4 ページをご覧ください。

プロジェクト 02（一色地区）の事業について、説明いたします。旧一色支所につきまして、旧本庁舎

は、平成 17、18 年に耐震改修工事を行っているなどの理由から、旧本庁舎の利活用を望む意見が多くあります。その一方、構造体劣化度調査では、構造体のコンクリートの中性化が進行しています。今後、公共施設再配置の理念に基づき、利活用するか解体するかを、引き続き検討していくこととします。旧一色支所の会議棟は、管理、防犯上支障があり、旧本庁舎の利活用を検討する上で影響は少ないと考え、解体します。また車庫は、さまざまな備品等の保管場所として利用されているため、解体はしないこととします。

次に、多機能型市営住宅は、建設予定地にある旧一色支所本庁舎を利活用することが可能か、解体することが適切であるか検討することとし、建設はしません。将来の人口減少や、民間住宅の空き家増加など、社会情勢の変化に応じるため、西尾市市営住宅長寿命化計画を平成 30 年度に見直しを行い、市営住宅の供給方法、建設場所及び戸数などの検討を行います。一色老人福祉センターは、多機能型市営住宅の 1 階に機能移転を計画していました。しかし、多機能型市営住宅を建設しないことにより、移転先が確保されなくなります。同施設は、昭和 47 年建築で、冷暖房設備の故障や雨漏りが発生している状況ではありますが、耐震改修を終えていますので、必要な修繕を行い移転先が確保されるまで、解体をせず、建物を継続使用することとします。

対米住宅と巨海住宅は、多機能型市営住宅の建設をしないことから、現在入居されている人たちの、住宅の確保が必要であるため、解体はせず、西尾市市営住宅長寿命化計画の見直しで、市営住宅の供給方法、建物場所及び戸数などの検討を行います。

子育て支援センターいっしきは、本年 1 月から西尾市子育て・多世代交流プラザ（旧一色健康センター）に機能移転をしています。療育センターは、空施設となった旧子育て支援センターいっしきを療育センター一色分室として、改修する計画でありました。しかし、療育センターの利用者の推移をみると、必ずしも緊急性は高くないと判断しました。旧子育て支援センターいっしきは、設備の古さや建物の老朽化が著しく、今後の維持・修繕等に多くの手間と費用が見込まれます。そのため、療育センターへの改修は行わず、施設は解体することとしました。表の下から 4 段目以降の一色健康センター、一色町公民館などは、改修工事が完了しています。1 枚めくっていただき、5、6 ページをご覧ください。

プロジェクト 03（学校施設）の事業について、説明いたします。寺津温水プール（仮称）は、今回の PFI 事業では建設せず、寺津小中学校プールの一元化につきましては、再検討することとします。一色 B&G 海洋センタープールは、プール水槽や排水管の腐食により、漏水が発生しているなど、施設全体が老朽化している状況ではありますが、寺津温水プール（仮称）を建設しないことから、当面は施設を維持することに努めます。しかし、財政負担軽減の必要性を考慮し、大規模修繕が必要となった場合には、解体することとします。寺津小中学校給食室は、市全体の学校給食調理方式についての方針を、平成 32 年度までに策定予定となっています。よって給食室は、今回の PFI 事業では建設しないこととしました。吉良中学校校舎は、改修工事を行わず、建替えを検討します。表の下 3 段の、寺津小学校・中学校、一色町体育館は、計画の通り改修をしていきます。1 枚めくっていただき、7、8 ページをご覧ください。

プロジェクト 04（資料館）の事業および、プロジェクト 08（包括マネジメント）の事業について、説明いたします。吉良歴史民俗資料館は、改修はせず、西尾市塩田体験館として利用します。包括マネジメント事業は、市内小中学校、保育園など 160 の公共施設の法定点検、維持管理業務を包括的に行う事業です。検証ではその効果に疑義を呈していますが、平成 29 年度は個々の委託業務を、包括契約へ移行した初年度であり、平成 28 年度で実施した業務を踏襲して行っているものです。

SPCが今後、業務全般を掌握し、維持管理マニュアルを整備した上で、包括マネジメント業務を行った場合の効果等については、現段階で明確な判断ができるものではありません。そのため、当面は状況の推移を見ながら、継続して実施し、今後、その効果等が判断できた時点で、改めて対応を検討します。以上で、「西尾市方式PFI事業の見直し方針について」の説明を終わります。

これらにつきましては市のホームページのほうで概要版とともに100ページぐらいの本編も公開しております。また4月1日の広報でも概要をお知らせしているところでもあります。

○司会

それでは、見直し方針についてのご意見を伺いたいと思います。私から指名させていただきますので、挙手をしていただき、お住いの地区名、お名前を名乗っていただいてからお話をさせていただきますようお願いいたします。

また、SPC・構成企業・関連企業の皆様には、どこの企業に所属しておられる方かおっしゃっていただきご発言をお願いいたします。なお、より多くの方にご発言いただけるよう要旨は簡潔にまとめ、ご発言いただきますよう、ご協力をお願いいたします。発言のしやすい雰囲気づくりにご協力いただき、意見に対しての拍手はご遠慮くださるようお願いいたします。ご理解をお願い致します。

それでは、ご発言のある方は挙手をお願いいたします。

○市民

目的とか背景とか基本理念、基本方針を見させていただいてわからないのが、理想の西尾市とか一色町の「こうあるべき姿」が抜けていると思います。こうあるべき姿に対して現在の一色町があって、そこにギャップがあるからこそ、その一つの施策としてこれらが浮かんでくると思うんですが、その西尾市一色町の「あるべき姿」をお伺いしたい。ギャップが一体何だったのか。

○検証室

私が感じているものとして、東日本大震災の後の一色町はなんとなく町が寂しい感じがします。今回一色三館の公民館・学びの館・健康センターを改修しました。私見てきましたが、華やかな雰囲気を醸し出しているような気がしました。一色町自体ももっと発展していただきたいという思いはあります。

○市民

それでは抽象的ですね。具体的に西尾市一色町はこうあるべきというものがあると思うんです。そのあるべき姿と現状とでさっき言われた衰退してるといったギャップを埋めるために策を作ってるんですよね。それとも場当たりのものですか。

○検証室

今のご質問に対して、今回は公共施設再配置計画のPFI手法の見直しを行ってきたということになります。今のお話は、西尾市の総合計画をどういうふうに策定していくのか。その総合計画の中で具体的どのような施策を具体的に打っていくのかというようなお話になろうかと思います。今回は前提とな

る 198 億円の PFI 事業計画の中で市民の皆さんの意見を聞きながら、何が必要で何が必要でないか、何が求められているのかという形で計画をまとめたということになっております。申し訳ないですが、全体として西尾市として今後どのように何を政策として打っていくのか、そのなかの一色町をどのように政策を打っていくのかというところとは議論が合わないのかなと思ひまして、率直に申し上げると今回はそこまで分析をして見直し計画を策定したものではないということになります。

○市民

一つ一つに対して、例えば一色町の人口を増やしていこうという理想と現状のギャップに対して、今後人口を増やしていこうと言うことに対して市営住宅が出てきたと思うんですよ。

ただ、子どもはいらぬよ、現状を延ばし延ばしでいいよということになると、例えば健康寿命を伸ばそうということでスポーツ施設が必要になってくると思うんですよ。上が決まっていぬのに下を具体的にどうしましょうかというのは、場当たりに感じて終わっちゃうと思うんですよ。上の議論を止めて下の議論をして「このお金をどう使いましょうか」ではなくて、例えば子育て支援とか重視していくならやるべきだし、先を考えた上での施策を考えていかないと、あるべき姿の一色町というものがなぬんですよ。

○検証室

おっしゃられていることはごもつともなんですけど、今回の見直しというのは、あくまでも契約の範囲内でどのようにやれるのかという限定された条件の中で見直しを検討させていただいたということをご理解いただきたいと思ひます。もしこの契約が白紙にできて、一から練り直せるという条件が与えられれば、また別の結論が出ていたと思ひますけれども、今回はあくまでも従来の契約の中で、皆様がどのようなご意見をお持ちなのかということをご考慮したうえで、このような見直し案を策定させていただきましたので、その点についてご理解いただきたいと思ひます。

○市民

いや。契約は契約でいいんだけれども、PFI 事業検証でもやる・やらないを、なぜやらないのかそこが決まっていぬのに、っていうところなんです。あるべき姿があつて、すべて決まっていぬと思うんですけども。

○検証室

先程言いましたけれども、今回は決められた契約したもの、それをどう見直そうか。市営住宅やめますということで、先程言われた人口問題。支援センターの改修をやめますということで、先程言われた子育ての問題。今回は契約に基づいた施設を止めるかどうか。今現在は公共施設再配置第 1 次プロジェクトの見直しです。この次にまだ第 2 次プロジェクトがありますのでそちらの方で検討していくということになります。

○市民

何をやるにしても、あるべき姿を考える必要があるのではないかとのことです。

○検証室

そこまでは今回検討されていません。今後市営住宅については長寿命化計画のなかで検討することになっていまして、30年度中に策定・見直しをすると説明の中でも言うておりますし、それ以外についても各関係課の中で協議をし、進めていくということになっておりますので、今回の見直しは説明させていただいたとおり契約の範囲内で市民の皆様が必要か必要でないのか、求められているのかということを検討して、「やる・やらない・引続き検討」の3つに分けさせていただいております。これは去年ここでの意見交換会の中でも方向性については触れさせていただきましたし、議会においても「やる・やらない・引続き検討」の3つにわけて3月までに方向性を出すということで進めさせていただいておりますので、全体の計画をどのように見直していくのかということは、今回の見直しの中では命題として与えられていなかったと私どもは理解しておりますし、そのように説明させていただいたと思っております。申し訳ありませんが、西尾市総合計画から見てどのようになっているのか、というところまでは今回の見直し計画には反映させていないということです。

○市民

では今回の計画は一色の姿を考えずに、この契約だけでやっていくということですか。

○検証室

申し訳ありませんが、すべて全体的に西尾市総合計画に照らし合わせてどのようになっているのか、というところまでは今回の見直し計画には反映させていないということです。

○市民

それ市長さんは、その方針でやっていくということですか。それでいいのですか。

○市長

先ほど職員が申し上げましたが、契約が発行して、進んでいる中で、どう方向を変えていくかという話でありますので、それが西尾市総合計画の中でどう反映させていくかというよりは、限られた条件の中で皆さんの声をどう反映させていくかというところでもありますので、PFI事業ではなく別の話として一色町をどうやって街づくりをしていくかというご質問であれば、総合計画とか都市計画プランがございますので、それにのっとった形で後日回答させていただくという形もございます。そもそもPFI自体も総合計画とか都市計画プランの内容を踏まえて作っておりますので、PFI自体がそこから外れて全く関係のないものではないという前提のもとで、見直しを進めてまいりましたということですので、PFI事業の見直しについては先程職員が申し上げたとおりでございますので、よろしく申し上げます。

○市民

今日はPFI事業の見直しについて市民のみなさんが一色のこの計画について良いか悪いか多彩な意見をいただいて、その結論は市ないしは市長さんが結論を出す。結論を出すための場ですから、もっと大きな問題については市議会等に意見を言うべきであり、この場ではPFIに限った議論を皆様方から聞きたいと考えております。

私も市民の一人として私見ですが、みなさんも意見を述べていただきたい。その結論は市長さんが出すということです。

見直し方針の資料をいただいて、個々の意見を述べたいと思います。旧一色支所は解体又は利活用を検討となっておりますが、個人的には残してほしいのですが、じゃあ建物をどのように活用するかはなかなか難しいです。私なりに考えておりますが、もし意見がなければ解体という結論になるかと思いません。

多機能型住宅については庁舎が壊れなければ作れる訳がないのですが、中身と用途を考えると必要なのではないかと思ひ賛成であります。

一色老人福祉センターは解体しないとあります。非常に活用されている現状を見ますと、残して置かなければいけない。随分傷んでおりますけども、私も賛成でございます。

対米巨海住宅は新しい公営住宅が出来ないということなので解体しないと言うことです。ただし、私の考えですが、対米住宅の敷地は将来的に一色中学校の移転を考えますと、あの用地が適切であると考えております。ちょうど同じスペースになっております。そういうことを前提に、ある程度おおよそのイメージを描いて将来的なことも考える必要があるのではないかと思います。

子育て支援センターいっしきは解体ということでございますが、私、見てきました。外観は傷んでおります。中はキレイです、扇風機・空調設備が整っており、雨漏りもしません。ただ、耐震等についてはわかりませんが、まだ利用できると考えております。私の考えでは民の運営で交流センターを作りたいと考えております。そういう夢のもとに、すべて民でお金を出し、運営をし、人も派遣し、一つのモデルケースを作りたいなと思っているところです。高齢社会・子どもの貧困化を考えると、親子3代が触れ合う場所は非常に大切であると考えます。昨日、子育て支援センターが新しくなったので見てきました。健康センターの中に、子育て支援センターと健康センターが併設している。子育て支援センターは八ツ面保育園から先生が2人来て運営をしている。ここに午前中で40人入ってました。おじいちゃんとお孫さん、おばあちゃんとお孫さんというパターンでした。残念なことにもいろいろな施設が入っているので、駐車場が8台しかないんです。使えないと言っておられたので考えていただきたいと思います。他の方にたくさん言っていただきたいと思います。足りないところは、その都度お伺いして申し上げます。以上。

○市民

最初におっしゃられた方の意見は当然で、長い目で見て一色町の将来を見据えて、ビジョンを考えた中でこういった再配置を考えていく、しかし両方で進めていかないと片手落ちになってしまいますので、そのあたりは計画的に役場の方々に進めていただきたい。

今回の見直しは前回私が話したような内容になっているので、感謝しております。すべてのことを100%履行しろというのは難しいと思いますので、ぼちぼちと、一つ一つまっすぐに前向きな方向で進めていただきたい。

総合的に5年10年先を見つめないで一色町は衰退しちゃいます。街の真ん中見てみてください、一色町の街の真ん中、一色町二区・三区はドーナツ化現象が起きていて、小学校でチームを作っても子どもがいらないような状態。ところが一区の方は人が増えていて、民生委員をやっている二区・三区が落ちる、一区が増える。

ぜひこの方向で進めていただければいいと思います。一色町・吉良町・幡豆町の方にも納得していただける内容ではないかと思います。

○市民

私は旧支所については当初の計画に賛成しています。防災機能を備えた多機能型市営住宅を早く作って欲しいと思います。当初の計画を見ても市民の意見を反映していると思います。老人福祉センターの代替施設としての機能。子育て支援センターの機能。津波の一時避難所。住民が誰でも利用できるスペースが有るとか、子どものための公園だとか、かなり市民が希望しているいろんな要素を入れていると思われるので、ぜひ進めてほしいなと思っています。

住宅に関して「対米住宅・巨海住宅の建て替え」は市民からの希望ということではないと思いますけれども、大前提が「公共施設を減らして、再配置をする」ということだった訳ですから、西尾市全体のことを考えたら選択肢の一つだろうと思います。

市営住宅を造るということで県の方から補助金が半額出るというような話を聞きました。19億円のうちの半額が県から市営住宅を造るということで出ると聞きましたので、活用しない手はないと思います。総額19億円もの莫大な金額を地域のために使っていただけるというのは、一色町にとって非常にありがたい。やっと合併した効果が見えるのかなと言う思いです。もしこの予算をどこかに移して、それを一色町が使いたい時に使うことができたなら、じっくりゆっくり考えてもっと良い施設を考えればいいと思いますが、そんなことはあり得ないです。この事業を逸したら、こんな大きな事業が一色町に来ることは無いんじゃないのかなと思います。ぜひやって欲しいと思います。

対米住宅が転出した後に一色中学校ができることも不可能ではないことを考えると、これはぜひやって欲しいなと考えるところでございます。

見直しの方針については、相手方のSPCに対しては無残な、手を引けと言わんばかりの内容だと思えます。7年くらい前の東京都青島知事の時に臨海副都心の計画を見直して、都市博中止を公約したからという理由で中止したことがあったと思います。あの時に、中止の保障で数百億円もの出資保障をして東京都に損害が出ました。いくつかの企業は倒産した。今回の見直し案が西尾市民にとって大きなマイナスの対象にならないように、ぜひ進めていっていただきたいなと思います。

○市民

一色学びの館はじめ三館の改修について、うちには幼い子供がおりまして、身近にああいった子どもが大変喜ぶ施設・公園を有して一日過ごせる場所がこの一色町にあるってことは本当にありがたい。そういう形を実現していただいて本当にありがたい。心から感謝しております。

しかし、そのまま北に向かうと旧一色支所のバリケードがあります。そこから東へ一本道で進むと今度は吉良支所のバリケードがあります。バリケードは本当にイメージが悪くて、なんとかバリケードが取れるような方向で、進めていただけるとありがたいと思います。

○市民

さきほど市営住宅の建築を進めて欲しいというご意見がございましたが、僕は現計画における市営住宅建設には大反対です。市営住宅では人が移動しちゃうじゃないですか。定住化ということを考えるな

らば他の方法があると思います。みなさんで知恵を出してほしいなと考えます。

東日本大震災が起こってから一色町の地価がだいぶ下がりました。ここに企業を持ってくるなんてことはまず不可能だと思います。では何を指すのかと考えますと、大きな市営住宅を造るのではなくて、若い人たちが住みやすい街を、環境を作ってあげるべきだと思います。子どもたちがそこで遊べられる、健やかに育つことができる環境を作るべきだと思います。一つのことにとらわれる必要はないと思います。知恵をかって視野を広げて、若い人たちが転入していただけるような環境づくりをしなければならぬと思います。今がチャンスだと思います。だから一区のところにも新しい家が建っているんです。あの人達は住んでいただけるんです。コンクリートのものを作っても何も生まれないと考えます。今の形で進めていただければいいと思います。

○司会

今回の見直し方針の中で「旧一色支所は解体するか利活用するかを検討していく」ということで方針が出ておりますが、皆様の中で「こういった形で利活用したらどうか」とか、そう言ったご意見等あれば挙手をお願いします。

○市民

旧一色支所の利活用か解体かということなんですが、今一色には高いところがないということで命山という話もありますが、すぐには出来ないんで、今ある庁舎を防災センターとして利用できないか。トイレもあるし、エレベーターもありますので、災害にはもってこいだと思う。30年間使えるところもあるようなので、是非活用していただきたいと思います。あとスポーツでも、使えると思うんです。やり方によっては利用価値がすごくあると思う。そういう意味ではしっかりと検討してやっていただきたいと思います。

子育て支援センターは解体するということですが、もし地元で利用したいということになれば、地元で責任を持ってやれるように市としてやっていただければ、いろんな利用価値があると思うんです。材料を提供して地元で子育てや食べ物なんかも**精通**した部分があります。方法は色々あるので一度検討していただきたいと思います。

○市民

計画通り市営住宅を建てた場合、家賃等はいくらぐらいになるのでしょうか。採算がとれるかどうかは今後の財政に大きく影響してくると思うんですけれども。その辺を抜きにして話をするのは違和感を感じます。半分補助金が出るとしても、その後の維持管理費はものすごくかかるわけで、SPCが一括借上げしていただけるのか、管理は市がやるのか、SPCがやるのか、その辺がどういうふうになっているのかちょっと知りたいのですが。

○検証室

少し前の試算ではありますが、おおむね3万円超えであります。維持管理につきましては、入退去と室内の修繕については市が行うことになっております。

○市民

3万円はすごく安いと思うんですが、それだと当然市の負担が多くなると思います。20億円の物が償却できないと思うんですがその辺は検討されているのですか。ただ市営住宅は建てないという話なら結構です。私は負担が大きくなるので建てない方がいいと思います。

○市民

一番最初にこのPFIの話聞いた時に「民間企業のもうけのために、どうしてこんなに税金を使うのかな」そういう印象をすごく受けました。「これは市民の意見を聞いて、希望を聞いて始まったのかな」という印象を受けたんですけど、ようやくここにきて市民の意見をきいて、それが反映されてきたのかなという感じがします。PFIというのは税金をできるだけ使わないようにしていく、というのが大事なことだと思っていましたので、今回改めて思ったのが将来的にもいい方向が出てきたなという気持ちがあります。

これから交渉とか議会の話とかいろいろ大変だとは思いますが、市民目線でやっていくことが何よりも大切だということを言いたいと思います。今までは議会・市長・民間企業がどうだとかいろいろ言われてきましたが、これから先のこと、一色町の将来のことを考えていくのが何よりも大事だと思いますので、いい方向が出てきたと思っております。

○市民

B&Gの件ですが、残していただけるのでしょうか？昨年ホワイトウェイブにトレーニングに行きましたときに、ホワイトウェイブのプールは夏場に入ると、とにかく岡山のファミリーマート交差点まで車が渋滞です。西は橋を越えて県道まで車が渋滞です。入りたくても渋滞して次の車が空かないと入っていけないような状態なのです。だから、待っている人が、子供達がぐずりだすし、困ってしまう。あんな不便な施設はないと思うんです。一色のB&Gをもうちよっと有効に活用するような政策を考えてもらえれば、あそこなら車の渋滞はあっても、大橋を渡れば魚市場があるし、魚市場の駐車場が借りれば何百台、千台という駐車が可能であると思います。寺津の温水プールが中止となったことを喜んでいますが、B&Gを残していただいて、一番西尾市で頻繁にプールとして活用できる場所だと僕は考えていますが、その点、市長さんに検討していただき、今車社会でありますから、駐車場というのは一番大事なんです。とにかく駐車場を気楽に停められて、皆さんが気楽に遊んでいただいて、いい気持で帰っていただける、そういう一色にしてもらいたいなと僕はそう思います。

それと、前に聞いたことがあるのですが、対米住宅を壊して中学校もっていく話がでましたけれど、その話は絶対にやめていただきたい。これは、一色中学校が対米住宅にくると産廃業者が一色西新田に管理棟をつくるのもってこいの場所になっちゃう。一色中学校があるために産廃業者も環境アセスという問題があるからつくれない。今は中学校も自転車通学ですから、僕ら子供の時は歩いて通学しました。毎日、3キロの道を歩いて通学しましたけれど、中学の時に3キロ歩くのは何でもない距離なんです。今の子は自転車通学ですから、4キロ、5キロあろうとも自転車で通えばなんでもない距離なんです。今の中学校は、グラウンドも広いし、非常にいいところだと思うんです。地震が発生しても屋上に上れる。僕もボードで釣りをやりますけども、太平洋から津波がきたときにどういうふうにくるのだろうとよく太平洋の方から三河湾眺めましたけど、まず師崎半島の方にぶつかって、師崎半島から2つに波が

分かれて湾内に入ってくることはまわってくるんですね。一色の護岸堤防は、4mの高さがあります。この4mを超える津波が実際くるのだろうかと考えたことが何べんもありましたけれど、この前の東日本大震災のときに、その2年後に英虞湾へ西尾商工会に視察で連れて行っていただいたときに、英虞湾のレストランで食事したときに英虞湾の底が津波影響ででちゃった。55億の真珠貝がもっていかれたという話を伺いました。その時に一色の三河湾がどうだったかということ1m水位がさがっただけで、上潮の時には通称「べこべこ」というものが打ち上げられて、一部壊れた船もあったそうですが漁船の方はまったく被害がなかった。とういのも聞いて漁師の友達もいますが、まずそんな大きなものは不可能ではないか、いうふうに伺っていますけれど、一色中学校は、いまのところに建て直すなり改築するなりしていただいて、絶対残していただきたい。B&Gも西尾市の大きな駐車場のあるプールでありますから、これにちからを入れていただいて、西尾市全体の方がプールに来るようにしていただきたいと考えています。

○市長

中学校の話ですけど、一つの考え方として対米にもってくるという考え方はありうると思いますけど、ただ、市としてそのような方針をもっているとかそういう考え方でいるというのは一切ないので、そこは誤解をしないようにしていただきたいと思います。

○市民

皆さんご存知のとおり南海トラフ地震というのは30年以内に70%から80%の高い確率となっています。そういった状況の中で、今回、多機能型市営住宅の中に、先ほどから話に出てます1,000人の命を守る津波一時退避所ですね、これは重要な案件だと思います。それが、これで中止になる。それに対応した他の方策が一つも書いていない。それだけ、西尾市は津波に対する危機感がない。私はそう判断しています。支所をどう使うかだとか、支所の津波待避所に対応しているだとか、そういう案件は一言もでていない。これはいかに西尾市が危機感がない証拠なのです。去年、町内会長の時に市長に直談判をしましたけれども、ここは避難区域だということで命山だとか是非検討していただきたいと強いお願いをした。それに応えていただいたかどうかわかりませんが、議会の中で津波建設協議会を今年度から設置すると、さすが、市長さんと回答を致しました。これをぜひ進めていただきたいなというふうに思っています。そういう中での、全然書いていない、非常に残念だなと思っています。津波シミュレーションの説明会とかでています。その中で、指摘しているんですが、西尾市は津波避難計画がないんです。それを指摘したときに、危機管理局の方は即答できませんでした。3、4人の職員の方が対応されたが、あるけど公開されていない。そんないい加減なことでもいいんですか？一番命を大事に津波避難計画は愛知県が市町村津波計画策定指針というのを平成27年度に全市町村に展開しています。それに対して、西尾市は必ず作らなければならない市町村に指定されています。だから質問したんです。だけど、回答が幼稚、あいまいで公開してないから公開してくださいという指示をしているのですが、そういうようなことから、むこうからですねどうも甘いというか危機感がない。津波シミュレーションの説明会のときに私、説明しているのですが、規模が同じ弥富市も推定被害者数1,100名と、西尾市が1,200名です。それぐらいよく似たところが弥富市なんです。そこは、もう既に全員が津波避難退避できる体制で、いつ津波が来てもいい体制ができています。これは書面上、データでみたものですが、それだけ命を大事に考えているんです。それに比べて、市長さんこの前説明して下さったように、これからなんで

す。もう5・6年は遅れていると考えています。ですから、今後は積極的に一色町の一番大事な命を最重点に進めていただきたい。

○市民

いろいろと抵抗勢力も多い中、ここまでこぎ着けていただきました。検証室の方々にも敬意を表したいと思います。質問が3つございますので、1個ずつ行いたいと思います。

本日の会合でありますけど、せっかく、こういった会合を設けていただいて、3回目が少し少ないなど感じています。町内会長さんには、どのように出席の呼びかけ・協力そういったことを依頼したのかそういったことをお聴きしたいと思います。今日、一色の東部校区の町内会長が、この公民館で会合をもっとるようでありますけど、この会合で顔をださないという事は、ちょっと残念だ。なりたけ、せっかく、頑張ってもらっていた見直し方針を多くの町民に方々に注視していただく必要があろうと思いますけど、そこら辺のところはどうなっているのか。

○検証室

今回の見直し方針の説明会につきましては、3月5日に見直し方針を発表した時に、直近の広報に載せる準備をしまして、4月1日号に掲載させていただきました。それとマスコミのほうにも伝えまして新聞の方にもものつとったと思います。そういったことはさせていただきました。ただし、町内会に対して、出席の要請などは一切しておりません。自主的に広報だとか新聞を見ていただいた方が出ていただけたと考えています。

○市民

読売新聞をみて会合を知った訳でありますけど、広報等に載せてよし、こういうことにプラスして、一色町には30の町内会がございますので、その町内会長さんに声をかける、そうすると町内会長の下に班長さんというのがございますので、広くそういったことが周知できるであろう。今後、検討していただくとうありがたいなと思います。

続きまして、2問目ありますけど、ただ今の説明で老人福祉センターを解体しない説明を受けました。それに関連して、ちょっと気になっていること2点をお聴きしたいと思います。結構、一色の老人福祉センターはお年寄りの方々が多く利用しております、お風呂など大変楽しんで利用させております。このお風呂が今後どうなるのかな。実際、お年寄りの方からお風呂がなくなっちゃうのかね、解体しないと大変ありがたいことですが、この1点と。確かあそこに社会福祉協議会も事務局があると思いますが、あれはどうなるかお聞きしたい。

○検証室

今の2点でございますが、当面そのままということになります。社会福祉協議会の事務所も入っておりますけれど、先ほど説明をした通り、市営住宅を新築しないということで、そこが行先かなと思いますので、当面移転先が確保できないということで、老人福祉センターについては、修繕を加えながら当面存続させる。機能についても現在の機能を維持していくと考えています。

○市民

お風呂はどうなりますか。

○検証室

当面、機能は維持していくとなっています。

○市民

続きまして、3問目であります。B&Gのプールであります。只今の説明では、大規模修繕が必要となった場合には解体と決定がございます。私は、後ろに教育部関係の職員の方見える訳であります。将来、西尾市内の小中学校プール維持するのは、決定的に無理ですよ、統廃合を余儀なくされる、このような状況の中で、B&Gのプールは、この一色地区の小中学校の統廃合に必ず必要な施設である。こう考えている。それから、佐久島小中学校はプールがございません。生徒は船に乗ってですね、B&Gのプールを利用している訳であります。そういった面からも B&G は大規模修繕となったら解体ではなく、解体はいいですが解体した後新しいプールを建設して欲しいとこういう事があります。こういったこういう公共施設の再配置は、これは行政コストを削減するのが目的であります。そういった面から考えますと隣に一色中学校のプールがございます。これもさらに老朽化していると思います。その中学校のプールと B&G のプールを統廃合して新しいプールを建ててほしい。そうすると、行政コスト削減の目的が達成できるのではないかな、こういうふうに思っております。それから今回の PFI 事業の見直しにあたって、当然、原点に立ち返って検証をされていると思います。私は、この PFI 事業の業者選定にあたっての募集要項それから業務要求水準書に目を通してみました。業務要求水準書には、こうあります。一色 B&G プールに関して、一つ目は解体であります。それからもう一つ、企画提案その(2)に跡地プールを建設する場合の要件として、新設プールが複数の小中学校プールを廃止することの代替え機能を担うことが検証された場合、跡地にプール建設可能とこういうふうに業務要求水準書には明記されております。ところが、今日の説明で、資料でも、解体ありきになっているのが、ちょっと、残念だなと思いますが、これは業者提案で、その時に B&G のプールは解体ありきで、業者は提案された。跡地は、エクストリームパーク、スケートボード場ですね、これを建設すると東海地区随一のものを造るという提案をされました。そして、温水プールは寺津に作って、一色町を含む周辺の7校の小中学生を通わせるという提案が業者からの提案でありました。まさに西尾市の業務要求水準と業者の提案は、はじめからボタンの掛け違いがあり、業者の提案が市民の反発をかかったものであります。

この際、B&G プールは、PFI 事業から外して、市の単独事業としていただきたいと思います。いかがでしょうか。文部科学省の学校施設環境改善交付金を活用すれば、業者が寺津で提案されておりました5億5千万円、こんなにお金はかかりません。そこら辺のことをひとつよろしくお願いをしたいと思います。

○市民

市営住宅ができる予定だった一色二区の町内会長を2年やっていました。支所の跡なんですけど、私は、個人的なんですけども、医療介護の施設を誘致していただきたい。というのは、PFI の一番最初の説明会でアンケートが紹介されたんですね。作ってほしい公共施設は何ですかっていった時に、圧倒的に一番

だったのが医療介護の施設を作って欲しいというアンケート結果があったんですね、そういうのがまるっきり PFI から抜けている。市営住宅を作って、やるかということなんですが、私としては第一希望はあそこに医療介護、具体的に言えば、西部のほうにある高須病院、東部の方にある深見病院みたいなものができればいいかなと思っております。役場の跡地についてどのようにするのかの話なんです、4年半前から町内会長だったんで出て行ったのですが、ワークショップというのがあったんですね。その話の中で、意見を要約すると、もう壊して市営住宅にするのは決まっているのだよ、その話はよしてくれと4年前からそういう姿勢だった。という事は、豊和グループさんが、そこに地域の人の資産をみんなて話し合っ、議論していこうねということではできなかったんです。もう、市の方があそこは役場を壊して市営住宅いれよというのは決まっているんですね、要求水準書にもそういうことが書いてあるものですから、じゃあ、豊和さんが地域のことを考えて、あのようになりたい、こうしたいというプランを出す余地がなかった。お願いなんですけども、その場所にどのようなものをつくるのか意見を出して下さいということですが、私が4年間ぐらい町内会長をやっていたころからの結論なんですけども、SPCの人と地域の人とじっくり意見を発することを、もう一回やってほしい。おそらく SPC の人でもね、市営住宅を作らないということをやってくれるなら、じゃあ、これもどうですか、あれもどうですかというの、やっぱり腹を割って、SPC の人と話ができると思うんです。できることならそうしていただきたい。市の皆さんと話をするのもいいですよ。だけど、SPC の人でもこの地域のためにあのようなふうがよい、このようなものをつくったらどうかというものが出てくるはずと思っている。是非とも、役場の跡については、SPC と機会と作っていただければなあと思います。先ほど防災の拠点という話がありましたけど、あのまま支所を残しておけば、一応、一時待避所として機能できますので、しばらく残してもらって、新しい施設をつくる場合は、駐車場の方から作って行って、最後にあれを壊す。そうすれば、その場所は一時待避所として機能しますので、そのようなふうで進めていただけたらいいかなと考えています。

○市長

一色の支所を壊すか否かを含めての結論を3月に出さなかった。もっと時間をかけても、地元の皆さんが納得いく結論を出したいなというのが一番最初にありました。なので、市の方だけで、結論を出すというのは早急すぎるだろうということで、具体的なお話しはまた市の方から後日投げかけさせていただく事になると思いますが。町内だとか PTA が入るかどうかも含めまして、どういう枠組みで今後話し合っ、いこうかというのを含めて、今考えていますので、もっと、地元の方々がいろいろ意見を出していただけるような形でいきたいと思っ、ただ、公共施設再配置でありますので、大幅に手を入れて、お金をかけてなにかをつくるというのは、難しいという条件のなかで、何がいいかなとざっくばらんに話をしていきながら、結論を出していきたいなと考えていますのでよろしくお願ひしたいと思っ

○市民

PFI の見直しでいくらぐらい節約できそうですか。

○検証室

まだ、今後検討する、例えば、さきほどの支所の跡地をどうするかということの話合いが、まだ済

んでおりませんので、今現在ではわからないというところであります。

○市民

西部小のプールはなくなってしまうのですか。

○検証室

今のところ考えていません。今後、教育委員会の方で、小学校のプールを一か所にまとめていこうという話をまとめようとしていますので、今すぐにではないですけど、後々にはなくなっていくということです。

○市民

僕たちの将来のためにたくさん節約してください。お願いします。

○検証室

ありがとうございます。頑張ります。

○市民

遠くから来たものですから、一色のことはよくわかりませんが、地震・津波というのはどうなるのでしょうか？もし、来たらどれぐらいの人が助かるのでしょうか？安くできる避難計画を作ってほしいと思います。

○市民

昨日、吉良町の方で出席させていただきました。もともと吉良町で発言を控えようと思っておりました。説明会の出席者が少ないということをお考えですか。

○市長

率直に言えば、もう少し参加者がいていただけたらと思っています。一方で、見直し方針の説明会となりますので、半年前と比べて人数が減るということは自然なことなのかなと思います。

○市民

昨日も一番印象に残ったのは、市長に感謝。PFIを反対されて、どれだけ意見を聞いていただいて、こういう結果をだしていただいた。また、私は、それは安堵感なんです。あのままいったら危ないじゃんという危機感が、ここで座れないぐらい集まって、そして、私が吉良にいて会場の方が怒り出しましたよね、それだけいらいとされる。なんでかわかります。市民の感情もだいたいそういう気持ちでこられると思うんですよ。それで、来ないというのは、安堵感があるんですよ。一度とまった、これだけ意見聞いていただいてよかったなと市長は本当にご苦労さまでした。

議員さんが我々の意見を吸い上げて、議員さんが上にもっていかねばいかんです。だから市長さんもお苦労であり、ありがとうございました。わたしも心から言いたいし、ここに来ない人は安堵感の現

れだと思っんですよ、来ない人はみんな満足して居るんですよ。あるいは、ちょっとしょうがないなと思っっているかもしれない。私は、本当に見直して頂いて安堵感はあります。計画の議案を通し、本当ならそのまんまスルツと行く。これは危ないなという危機感、そうなれば損害賠償ですよ。誰が責任を負うんだ。そこで、私が前回言っただが、悪いのは私も有権者として、無関心というので一番いかんのだと自分では謝っただけけれども、そして、議員が居るのだから、要望を議員に上げていかなきゃいかん。損害賠償については誰が責任をとるのだという、もし本当に損害賠償が出たなら、市民も悪いけれども、私も反省します。

○司会

ありがとうございます。先程、津波避難計画のお話がありました。言われるものと同じかどうか分かりませんが、西尾市で津波避難シミュレーションを平成 30 年 3 月に作成しており、市のホームページでも公開しています。

では、お時間となりましたので、これで説明会を終えたいと思います。閉会にあたりまして、市長からお礼のあいさつを申し上げます。

○市長

本日は、長時間にわたり、ありがとうございます。たくさんご意見をいただきまして、どれが正しくて、どれが正しくないかということではないと思います。こうして皆さん方がご自身の意見を言っただけに意味があると思いますし、全部が全部反映させるのは難しいと思いますので、市としては、今回公表いたしました見直し方針が最適だと考えて居まして、この考えを基に、今後事業者側と協議していきたく思っています。これまでも、これからも市民の皆様の声はしっかり丁寧に聞いていきたく思っていますし、実際の行政運営は僕たちがやらせていただきますが、やっぱり主役は市民の皆様方でありまして、このような機会は大切にしながら、市政運営を行っていきたく思っています。PFI 事業の見直し凍結がニュース的に大きな話題になりましたが、それによって多くの市民の皆様が自分たちのまちづくりについて関心をもっただけきっかけとなったと思いますので、こうしたことをマイナス的にもって行くのではなくて、ご意見もありますけど、プラスの方向で、これからの西尾市のまちづくりに反映させて頂きたいと思っいます。今後ともご理解とご協力をお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

○司会

最後に事務局から 1 点ご連絡いたします。お配りしておりますアンケートにご協力いただきまして、アンケート用紙と筆記用具を出口の回収箱にお入れいただきますようお願いいたします。

それでは、これをもちまして「西尾市方式 PFI 事業見直し方針についての説明会」一色地区を閉会いたします。

交通安全にご留意いただき、お気をつけてお帰りください。ありがとうございます。

※個人情報の都合により、表現を一部修正しています。